

国際医療ボランティア・AMDA（本部・岡山市橋津）が今年、設立三十年を迎えた。災害時の緊急救援や途上国の衛生改善など約五十カ国で活動する傍ら、地域に国際貢献の大切さを根付かせてきた。国際紛争に伴う活動が増える中、文化や宗教観だけでなく、政治的背景も理解できるスタッフの育成などが求められている。



難民救援や、米中樞同時テロ（二〇〇一年）に対するアフガニスタン報復攻撃の際も医療チームを派遣。イラク戦争時（二〇〇三年）には難民への医療支援を目的に隣国イランへスタッフを送り込

むなど、紛争地でも行動の幅を広げている。

28支部が活動

AMDAは一九八四年八月、岡山市の開業医・菅波茂代表もが、アジアでの医療救援活動を目

岡山発の国際貢献20年

大雨による大洪水が起こり、百八十人を超す死者、十五万軒以上の住宅被害が発生。

大津波に見舞われたバングラデシュは、AMDAは緊急救援の活動の柱。フィリピン、インド、ルワンダの被災民を支援した。

今年七月、大水害に見舞われたバングラデシュは、AMDAは緊急救援の活動の柱。フィリピン、インド、ルワンダの被災民を支援した。

今年七月、大水害に見舞われたバングラデシュは、AMDAは緊急救援の活動の柱。フィリピン、インド、ルワンダの被災民を支援した。

- AMDAの主な歩み**
- 1984年8月 AMDA（アジア医師連絡協議会）設立
 - 1993年7月 国際貢献トピア岡山構想を推進する会設立
 - 1995年1月 阪神大震災緊急救援プロジェクト開始
 - 6月 国連NGO認定▽サハリン北部地震被災者救援のため岡山空港から物資を空輸
 - 8月 岡山県三木記念助成金を受ける
 - 1996年1月 山陽新聞賞受賞
 - 2月 中国雲南省の地震被災者に救援物資を空輸
 - 2001年2月 インド西部大地震被災者に救援物資を空輸
 - 8月 菅波茂代表が岡山県三木記念賞受賞▽同県より「特定非営利活動法人」の認証を受ける
 - 2003年2月 スリランカ医療和平プロジェクト開始



スリランカ医療和平プロジェクトで巡回診療に取り組むAMDAスタッフ（左）AMDA提供

「医療和平」掲げ 人材育成急ぐ

的に「アジア医師連絡協議会」として設立。活動エリアはアジアの枠を超え、発展途上国での医療環境整備や地域開発など中・長期的な支援も実施。九五年には国連NGO（非政府組織）に認定され、現在、世界二十八支部が十四カ国でプロジェクトを進めている。

二年ほど前からは「医療和平」を提唱。紛争地で敵対する双方に医療支援を行うことで停戦を促し、和平につなげる試みで今後の中心事業の一つに位置付ける。

スリランカで発行する「健康新聞」もその一環。多民族に対応して英語、シンハラ語、タミル語で衛生環境の改善や感染症の予防法、政府関係者からの平和メッセージなどを紹介する。

スリランカは民族紛争が約二十年続き、「身近な情報を共有すること、で互いの恐怖心を弱め、相手も自分と同じ国の人」という意識改革を促したい」と、調整員として一年間活動した富田彩香さん（二）は狙いを話

「岡山発の国際貢献」もAMDAのキーワード。岡山空港からは地震救援などでサハリン、中国、インドへ計三回、救援機を飛ばし、岡山を舞台にした「NGOサミット」や、国際貢献都市構想の呼びかけにも尽力。こうした取り組みは、都道府県では全国初の「国際貢献活動推進条例」施行（今年四月）などにもつながった。

自然災害に加えて国際紛争やテロなどによる人の災害は絶えず、NGOの役割は増すばかり。宗教観や生活文化様式、さらに国際情勢なども理解したスタッフらの確保が今後の大きな課題となる中、AMDAは「公設国際貢献大学校」（岡山県哲多町）などを通じた人材育成を急ぐ。

菅波代表は「国際機関や行政、企業、大学との連携も進め、組織強化を図りながら日本や世界の利益になる活動を続けたい」と将来を見据える。